

平成27年度まちづくり月間 まちづくり功労者国土交通大臣表彰

国土交通省では、豊かでうるおいのあるまちづくりを推進するため、昭和58年から毎年6月を「まちづくり月間」と定め、まちづくり功労者に対する国土交通大臣表彰等の様々な啓発活動を実施しています。

平成27年度は、「まちづくり功労者」として全国で27団体が表彰され、茨城県では、「水戸市」「笠間市」の2市が表彰されました。

■水戸市 ～歴史性を意識した第二中学校周辺整備事業により、まちの魅力向上に貢献

第二中学校は、学校施設の老朽化に伴う校舎等の改築を行うにあたり、白壁や土塁に囲われた弘道館や大手橋との調和や歴史性を生かした景観づくりを計画することとしました。

この考えに基づき、基本方針として、「まちづくりの拠点としての教育環境の整備：他の公共施設との連携や地域の防災拠点としての役割、歴史ゾーンとしての景観や街並みの育成に配慮するような教育環境づくり」をあげ、改築事業を進めました。これにより、校舎、屋内運動場及び武道場の屋根を和瓦葺きにするなど建物の外観にも考慮して平成18年度から21年度にかけて学校施設の改築を行いました。

また、改築事業に伴い、当該箇所が埋蔵文化財包蔵地「水戸城跡」の範囲に該当していることから発掘調査を行っており、その発掘結果を展示して地域が持つ歴史的価値について、児童・生徒だけでなく市民や観光客の方々に広く周知することを目的として展示休憩施設を整備しました。

この整備により、三の丸小学校、弘道館、第二中学校とつづく「三の丸歴史ロードと城跡通り」が、将来にわたり旧水戸城本丸、二の丸、三の丸全体を観光できるルートとしての意味を持ったものとなっていくことが期待できます。

【お問合せ先】 水戸市学校施設課 TEL：029-306-8679



■笠間市 ～地場産業を活用した観光交流センターを整備し、まちの魅力向上及び観光振興に貢献

「石の百年館」は、市内で石材業を営む㈱タカタが、稲田石の1世紀に渡る歴史を記念して開館した資料館でしたが、平成22年、同社の採掘場閉山に伴い閉館。残された稲田石の外壁や所蔵資料などの寄附を受けた笠間市が、地域振興の拠点として大幅にリニューアルし、JR水戸線稲田駅隣接地に移設しました。

旧・百年館の外壁は、現在では希少な「こぶ出し」という技法で削り出された重量感に満ちた稲田石であり、これを再利用して複数の石のハコをつくりだし、展示室としてランダムにプロットすることで、石のハコを回遊するミュージアムを構成しています。



石の箱が並ぶ外観が石切場や石積みの風景に溶け込んでいく姿は、まるで町の中にミュージアムをちりばめたようでもあり、町なかを散歩するように、様々な表情の石のハコを巡っていく楽しさをつくり出すとともに、建築物そのものが町なかの展示品になっています。

平成26年3月の開館以降、石工の手道具を展示する企画展や地元小学生向けのワークショップなどが開催されており、地場産業を活用したまちづくりの拠点として地域アイデンティティの形成に貢献しています。

【お問合せ先】 笠間市商工観光課 TEL：0296-77-1101

いばらきの景⑦ 笠間の家



「笠間の家」は、笠間市の中心市街地近郊に位置し、陶芸家里中英人氏（故人）のアトリエ兼住居として、日本を代表する建築家である伊東豊雄氏の設計で建築され、日本建築家協会新人賞を受賞した作品です。笠間市は、故里中氏の遺族から寄贈を受け、伊東豊雄建築事務所の協力の下、原型に近い形に修復し、工芸品の制作や展示等、地域の活性化のために活用しています。また、平成25年度には、この取り組みが評価され、いばらきデザインセレクション2013知事賞に選定されました。



笠間市商工観光課 橋本 真理子